

1年生が第1回目の福祉体験を実施しました！

38期生の2学期の「総合的な探究の時間」は、福祉体験や防災、人権をテーマとして、クラスごとに毎回違う体験をします。基本的には1学年の職員が講師となって、車椅子や白杖、インスタントシニアの器具を付けての歩行、来年のパラリンピックに向けて、理解を深めるためのポッチャ体験など、普段なかなか経験できないことをクラス全員が体験します。毎回振り返りのワークシートで考えを深めながら、以前福祉コースのあった綾瀬西高校ならではの貴重な授業を展開しています。夏休み中に福祉科の三品先生からレクチャーを受けた職員が、それぞれの担当ごとに生徒へ伝授していきます。この経験が活用できる場面があれば、ぜひ自分から声をかけて動ける人になってほしいです。写真は、8月21日に職員が研修したときのものです。



車椅子の開き方、乗せ方、押し方を学びます。

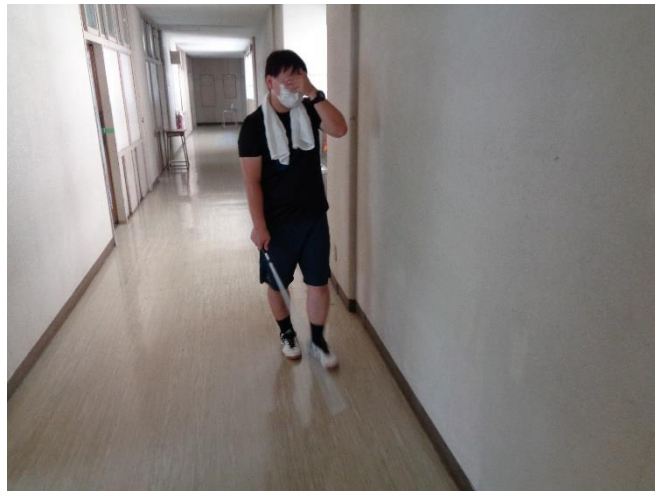


坂道の押し方にもコツがあります。



中庭を一周しました。

アイマスクは共用できないので、自分で目隠しして、白杖を頼りに廊下を歩きました。



狭い場所を通る時は、介助する人の声掛けが重要です。

高齢者がかかりやすい白内障、耳が遠いことを再現するイヤーマフ、半身まひを再現する重しを片側のみに付けています。



白い目標球（ジャックボール）に向かって赤と青2つのチームに分かれて、自分たちの色の球を投げます。車椅子に座ったまま投げられますので、男女関係なく楽しめます。

